

8-3-5 社会資本整備のあり方検討WG

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

委員会開催回数：11回

(企画委員会と同一日に開催)

(2) 委員会の活動経緯

平成17年度に企画委員会内に設置された「社会資本整備のあり方検討WG」は、当初、企画委員会委員の在京メンバーによって活動に着手し、建設コンサルタンツ協会ホームページのうちの「建設コンサルタントという仕事」のページのリニューアル版の制作等を担当した。

その後、平成18年5月より協会の正式な専門委員会として発足した。企画委員会委員全員をメンバーとし、これに建設コンサルタンツ協会インフラストラクチャー研究所研究員を加えて活動を実施してきている。

(3) 委員会の活動内容

当専門委員会は、中期行動計画の施策「1-3 建設コンサルタントの役割の提案」「1-6 社会資本整備のあり方の提言」「2-6 社会ニーズの掘り起こしと技術開発」「4-2 自律した経営の実践方策」を担当し、専門家集団としての役割の発揮と社会貢献を果たすため、これからの社会資本整備のあり方の中での建設コンサルタントの役割について情報発信、問題提起等を行うことをミッションとしている。

平成30年度は道路の包括的管理業務を主な検討対象としつつもインフラマネジメント全般を対象として、2つのSWG（先端技術調査SWG、自律経営SWG）を設置し、建設コンサルタントの役割を検討してきた。

a) 「先端技術調査SWG」の活動内容

道路の維持管理などインフラマネジメントにおける先端技術の事例収集や必要となる技術のアイデア出しを行った。

また、収集した事例を「構想」「調査・計画」「設計」「実施・運営」といった事業段階別の分類で整理し現状と課題を把握した。

b) 「自律経営SWG」の活動内容

インフラマネジメントにおいて建設コンサルタントが果たしている役割を、官民連携事業にフォーカスして事例収集した。

また、収集した事例を「構想」「調査・計画」「設計」「実施・運営」といった事業段階別の分類で整理し現状と課題を把握した。

2. 次年度の活動について

次年度以降は名称・体制を見直した上で「建設コンサルタントの新たな役割検討WG」として活動する。

わが国及び諸外国の社会資本整備の歴史を振り返り、その効用と課題を整理する。さらに、国民ニーズを社会環境の変化を踏まえて、今後の社会資本整備のあり方や建設コンサルタントの果たすべき役割を検討し提案する予定である。

(社会資本整備のあり方検討WG

WG長 伊藤 弘明)